

令和7年度（2025）九州考古学会 プログラム

日時：2025年11月22日（土）1日目

13:00～16:45 企画「九州考古学の黎明と新たな地平」

17:00～18:00 総会

2025年11月23日（日）2日目 9:30～17:20 研究発表・ポスター発表

会場：西南学院大学 百年館（松緑館） 1階多目的ホール

【11月22日（土）1日目】

12:30～ 受付・オンライン接続開始

13:00～ 開会式

★企画「九州考古学の黎明と新たな地平」

13:10～13:15 趣旨説明

13:15～13:55 K1「金関丈夫の研究を起点とする弥生時代人骨研究の変遷と学際的継承」
米元史織（九州大学総合研究博物館）

13:55～14:35 K2「岩戸山古墳研究の近現代における展開と森貞次郎の学術的貢献」
足達悠紀（宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室）

14:35～14:45 休憩

14:45～15:25 K3「鏡山猛先生と大宰府の遺跡」

吉田東明（九州歴史資料館）

15:25～16:45 K4「弥生時代における日韓間の人的交流の研究現状—韓半島の古人骨研究事例を中心
に—」

金 亨哲（国立加耶文化遺産研究所）

★総会

17:00～18:00 総会

★情報交換会

18:00～20:00 情報交換会

【11月23日（日）2日目】

9:00～ 受付・オンライン接続開始

9:20～9:30 開会 事務連絡

9:30～10:10 ①「東北九州における縄文・弥生移行期の遺跡群動態について」
小南裕一（北九州市役所）

10:10～10:50 ②「弥生時代における鉄鏃副葬習俗の定着と変容」
鈴木崇司（慶北大學校）

10：50～11：30 ③「楽浪塙における特殊な縄目」

白井克也（九州国立博物館）

ポスターセッションコアタイム 11：30～12：00

P1 「妙法寺古墳群の発掘調査について」

岩瀬 聰（那珂川市教育委員会文化財課）

P2 「環状鏡板付轡にみられる地域色と地方生産の可能性－北部九州と四国を中心に－」

宮代栄一（朝日新聞社東京本社）

P3 「昆虫破片から試みた筑後国府跡の古環境復元－第315次調査成果から－」

長谷川桃子（久留米市文化財保護課）・荒谷邦雄（九州大学大学院比較社会文化研究院）

P4 「近世古人骨における変形性関節症の階層的比較研究」

米山玲緒（九州大学大学院地球社会統合科学府）

P5 「文献記録「蒸気罐製造」と発掘調査で出土した鉄鋤－幕末近代化遺産の調査事例報告－」

中野充（佐賀市教育委員会）

P6 「宇佐市の双葉山生家に残る「愛國ムシカマド」について」

弘中正芳（大分県宇佐市）

12：00～13：00 昼休み

13：00～13：40 ④「先史時代の屋根構造について－垂木の形状を中心に－」

谷直子（九州大学埋蔵文化財調査室）

13：40～14：20 ⑤「福岡市美術館所蔵晋式帶金具の研究」

藤井康隆（佐賀大学芸術地域デザイン学部）

14：20～15：00 ⑥「尾長谷迫遺跡の発掘調査成果」

松崎大嗣・西牟田瑛子・江口寛基（指宿市教育委員会生涯学習課）

15：00～15：10 休憩

15：10～15：50 ⑦「古代土壤DNAの考古学への応用」

澤藤りかい（九州大学大学院比較社会文化研究院）

15：50～16：30 ⑧「近世長崎における「南蛮寺」の考古学的研究－花十字紋瓦からみる教会造営体制の復原－」

江本凜（広島大学大学院人間社会科学研究科博士課程前期1年）

16：30～17：10 ⑨「大島需品支庫跡の赤レンガについて」

鼎 丈太郎・鼎 さつき（瀬戸内町教育委員会）

17：10～ 閉会式